

みんなの環境

第25号 2010年2月22日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

持続可能な循環型社会をめざして - 4

韓国の都市を見る

代表 狩野光子

娘が2006年に韓国で仕事をする事になり、私も何度か同地を訪ねて市民生活を垣間見る機会がありました。やはり韓国でも増え続けるゴミの対応に苦慮を重ねたようです。しかし、日本のような大量生産、大量消費のままの循環型社会を築こうとしていませんでした。



色々な所に設置されているシンプルな給水機

1994年には、使い捨て製品を規制する「1回用品規制」が制定されており、食堂やレストランでは金属製の箸が使われ、一流のホテルでも歯ブラシなどのサービスは一切禁止になっていました。また、自動販売機もあまり見かけませんでした。

1995年からはゴミの指定袋による有料化も導入されていて、処理費用の70%を賄い、スーパーのレジ袋も1枚100ウオン(約10円)で何度でも繰り返し使えるような丈夫な袋でした。ところによってはお店に戻すと50ウオン返金されるデポジット制度になっていて、50%もレジ袋の消費量が減ったところもあるそうです。

そして2003年には、法律の根幹とも言える、拡大生産者責任制度(Extended Producer Responsibility)を制定して、13の企業・団体が収集とリサイクル費用をすべて負担しているそうです。また、生ゴミもマンションを一步出ると、常時、生ゴミ回収ボックスが50m間隔でおいてあり、生ゴミのリサイクルも徹底している様子が窺えました。

まさに、行政、企業、市民が一体となって、本気でゴミ問題に取り組んでいるようで、羨ましく思いました。日本でも一日も早く大量生産、大量消費の暮らしを捨て、未来へ持続可能な社会を引き渡せるようになって欲しいと思います。

*

当会では、ゴミのない地域社会を目指し、『廃棄物部会』を立ち上げました。市民にもできる事を実践して行きたいと思います。次号から数回にわたり廃棄物部会からの報告を掲載します。



生ゴミ回収ボックスは50mごとにある

～ 私たちの活動 ～

市立依知中と市立戸田小で環境学習支援

太陽エネルギーに驚きと実感

神奈川県学校派遣事業の一員である私たちの会では、厚木市立依知中学校と厚木市立戸田小学校から、平成 21 年度の環境学習の支援を依頼され実施しました。

市立依知中

9月23日(日)10時～11時に実施しました。この日は夏休みの生徒会活動日ということです。まず、学校の周囲の道路の草取りをした後、私たちをはじめ、市内のボランティアからいろいろなことを学ぼうということでした。

私たちの「ソーラークッカーを作ろう」を希望した生徒は31名で、当会の参加者は3名でした。

教室は工作室で、モノづくりのための工具や材料などが豊富にそろえられているのに感心しました。

黒板には鏡による光の反射の説明図が描かれ、これを勉強中だということが分かりました。ソーラークッカーは放物面鏡で、太陽エネルギーを焦点に集めるので、光の反射を勉強している中学生には参考になったのではないかと思います。

中学生である生徒たちはハサミさばきがはやく、たちまち直径約35cmのソーラークッカーを組立てました。時間の関係で、これを利用したクッキングは後でやってもらうことにして約50分で終了しました。



ソーラークッカーの製作

市立戸田小

10月27日(火)9時40分～12時20分に環境学習支援をしました(児童:5年生63名、当会の参加者:6名)



みんなでふかしイモを試食

学習後に、ふかしイモを試食し、自分達のゆで卵も食べてもらいました。太陽エネルギーで、ゆで卵やふかしイモができることに、みんな驚くとともに感心していました。

まず、アルミ箔を貼りつけたボール紙製の型紙に描かれたソーラークッカーの部品を切り出します。そして組立て完成します。

茶筒大の黒い缶に生卵を入れ、自分のソーラークッカーにセットして、晴天の太陽に向けて約40分間静置しておきます。実用の直径約85cmのソーラークッカーにもサツマイモを入れた黒いなべと一緒にセットしておきます。この間に地球温暖化について、プロジェクターを使ってQ&A形式の学習をしてもらいました。

学習後に、ふかしイモを試食し、自分達のゆで卵も

(藤田 実)

エコ風呂敷によるクッキング

おばあちゃんの知恵で楽しい調理時間節約生活のすすめ

*建部美枝子



**保温効果の大きい
エコ風呂敷**

調理時間の節約

やりくりは食費だけではなく、5分間の一煮立ちで60分の調理、調理時間が短くおいしい煮込みが出来ます。朝の5分間で夕方まで暖かいエコ風呂敷です。日常の小さな事が大きなエコになります。楽しみながらおいしい煮込み料理が出来ます。

調理例 肉じゃが おでん カレーライス シチュー パンの発酵
保温 酒まんじゅうの発酵

毎日使っているから差も大きいキッチンエコ

鍋 鍋底の水滴を拭き取って使う。
鍋底がたいらで大きいものを使う。
鍋にはかならずふたをする。

ガスコンロ
調理は強火より中火で
湯沸かしは給湯器のお湯で
電気ポットより魔法瓶で

(*) あつぎ環境市民の会 国際ソロプチミスト厚木 厚木市在住

みなさんの生活の中でのエコを、会報「みんなの環境」に投稿してみたいかがかでしょうか。 随時原稿受付中です

環境対応型太陽エネルギー利用シンポジウム

神奈川工科大学で開催

市民生活の中に太陽エネルギー利用が急速に進んできていますが、1月23日(土)、神奈川工科大学で太陽エネルギーシステム研究開発センター(所長:森武昭副学長)の研究者によるシンポジウムが開催されました。研究発表のほか厚木市の補助制度、当会、東京ガス、東京電力、昭和シェルソーラーによる講演などがありました。

当会はこのシンポに協賛、活動報告や受付のお手伝いのほか、聴講者としても参加しました。会場のメディアホールには150人を超える研究者や技術者、市民、報道関係者などが熱心に研究成果や講演に耳を傾けていました。

この中で電気分解により発生させた水素により農業用ハウスの暖房を行う研究が披露され、重油を燃やす方法では、CO₂の発生とともに熱の多くは外部へ排出されるのに対し、水素燃焼方式では暖められた水蒸気が温室内に排出されるために、温度、湿度が一定レベルで非常に効率の良い暖房ができるとともに、栽培する野菜などに水素が良い効果を与えるとのこと。研究では商用電力を利用して水素を発生させていますが、これを太陽電池パネルで発電した電力を使えば、CO₂を排出しないシステムができるため、これから有望な分野という印象を受けました。

写真は、同大学が素材の違う3種類の太陽電池、三菱重工製(微結晶シリコンタンデム型)、京セラ製(多結晶シリコン型)、昭和シェル製(CIS化合物型)を壁面に取り付けて性能評価を行っている模様です。更新などの際にネックになってくるサイズ、取り付け方法、出力電圧、屋根との一体型パネルの標準化など、課題克服もこの研究で前進することを期待しています。(井上 允)



生物季節を記録しよう 2月～3月の自然

2月は光の春といわれます。私の家の隅ではオオイヌノフグリやホトケノザの花がきれいです。まだまだ寒い季節ですが、元気な虫たちもいます。暮れの頃から生け垣の上で小さな虫が群になって、それこそ夏の蚊柱のように飛んでいるのが見られます。この時季が生殖の時期なのでしょう。郷土資料館の槐(えんじゅ)さんに聞いたら、ワタアブラムシの仲間だとのこと。植物が元気になる本格的な春には飛ぶことができる時があるなど想像もつかない姿で汁を吸うことに専念するのですね。これからは日に日に咲き出す花が楽しみになります。3月も半ばを過ぎるとツバメが帰ってきたり蝶が飛び出します。最初に姿を見せるのはいつ頃になるでしょう。

あなたの見聞きしたものを教えてください。見たり聞いたりしたもの。場所(市内だったら地名 丁目くらいまで) お名前・連絡先(場合によっては確認のためお訊ねする事があるかも知れません。発表する時、個人名は匿名にします。)ここに掲載するデータは、紙面の都合で取捨選択させて頂くことはお許しください。情報はFAX(046-222-2356)またはメール(kohji.aoto@nifty.com)で青砥航次へ。

みんなの環境 第25号 2010年2月22日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子 /制作 長岡 恂

電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp

事務局 〒243-0817 厚木市王子2-14-3 山中延明 方

電話/FAX 046-224-9693 e-mail: ANA40480@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 A:2000円 B:1000円)

(C)あつぎ環境市民の会 2010